

# GroE Mix

## #PF004-10ML

### 5 x 2 mL 反応用

(タンパク質合成試薬は添付されていません)

*in vitro* research use only

開封前保存温度：-80℃

Sep 2024



ジーンフロンティア株式会社  
www.genefrontier.com

〒277-0005  
千葉県柏市柏 273-1  
シャープ柏ビル 4階

## Note

GroE Mix は研究用試薬です。ヒトを含む動物などへの投与、臨床、診断など他の用途への使用を禁じます。また、食品、家庭用には使用しないでください。

GroE Mix を使用する際には、RNase フリーの水、試薬、器具類を使用してください。また、手袋、マスクの着用をお勧めします。

PUREfrefx は、ジーンフロンティア株式会社の登録商標（第5443077号）です。商用利用をご希望の場合は、事前に弊社までお問い合わせください。

e-mail: purefrefx@genefrontier.com

## Distributor



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016 東京都江東区東陽 2-2-20 東陽駅前ビル  
URL : <http://www.cosmobio.co.jp/>

● 営業部（お問い合わせ）  
TEL : (03) 5632-9610 FAX : (03) 5632-9619  
TEL : (03) 5632-9620

## Introduction

### 1. PUREfrefx® について

PUREfrefx® は、PURE system を基に開発された再構成型無細胞タンパク質合成キットです。PURE system は、東京大学大学院の上田卓也教授のグループにより開発された再構成型無細胞タンパク質合成系で、転写・翻訳・エネルギー再生に必要なタンパク質、リボソームを個別に精製した後、アミノ酸、NTP などと混合した合成系です (Ref. 1, 2)。反応液に、目的のタンパク質をコードする DNA (または mRNA) を添加して反応することにより、タンパク質を合成します。精製した因子を混合した反応液を使用するため、組成を自由に調節できる、翻訳などに無関係なタンパク質をほとんど含まないなどの特長があります。

PUREfrefx® は、反応液に含まれるタンパク質、リボソーム、tRNAの調製方法を改良し、純度を高めた合成反応液です。特に、混入していた大腸菌由来のリボ多糖は、反応液 1 µL あたり 10<sup>-4</sup> EU 以下にまで低減されています。また、RNase、βガラクトシダーゼなどの混入タンパク質も減少しています。さらに、PUREfrefx® に含まれる翻訳因子などのすべてのタンパク質には、精製、検出用のタグ配列が付加されていません。そのため、あらゆるタグ配列を付加したタンパク質を合成し、タグにより精製することが可能です。

References) 1. Shimizu *et al.* (2001) *Nat. Biotechnol.*, vol. 19, p. 751  
2. Shimizu *et al.* (2005) *Methods*, vol. 36, p. 299

## Introduction

### 2. GroE Mix について

リボソームで合成されたタンパク質が機能を発現するためには、正しい高次構造を形成する必要があります。合成されたタンパク質の高次構造の形成・維持に関与するタンパク質として Hsp70 や Hsp60 などの分子シャペロンが知られています。PUREfrefx® は、転写、翻訳反応に必要な因子のみから再構成されており、分子シャペロンは含まれておりません。そのため、合成するタンパク質によっては正しい高次構造形成ができず、不溶性となる場合もあります。このような場合、分子シャペロンを添加して合成することで可溶性となり、機能を発現するタンパク質もあります。

GroEL は大腸菌の Hsp60 で、一部の新生タンパク質の構造形成や、品質管理に必須であることが知られています。GroEL は 14 量体のダブルリング構造を持つ ATPase であり、7 量体の GroES と協調して働きます。

GroE Mix は、高度に精製した大腸菌由来の GroEL、GroES を適切な濃度比であらかじめ混合した溶液です。PUREfrefx® (#PF001-0.25、#PF201-0.25) を用いたタンパク質合成時に添加することにより、単独では高次構造を形成しにくいタンパク質を活性を有した状態で合成しやすくします。

## Kit components

開封前の保存温度は、すべて -80℃ です。

● **GroE Mix (Purple)** 50 µL x 5  
内容：20µM GroEL, 40µM GroES\*1  
(30% グリセロール溶液)  
開封後保存温度：-80℃\*2

● **Dilution Buffer (Clear)** 500 µL x 1  
内容：30% グリセロール溶液  
開封後保存温度：-20℃

\*1)

GroELは14量体、GroESは7量体とした濃度です。  
GroE Mix の標準的な使用温度は0.5 µM GroEL, 1 µM GroES ですが、合成するタンパク質により、最適濃度が異なる可能性があります。  
希釈が必要な場合は、添付の Dilution Buffer をご使用ください。

\*2)

使用後の残りの反応液を-80℃で保存する場合、液体窒素やドライアイス/エタノールなどで急速凍結してから保存してください。必要に応じて分注し、凍結融解の繰り返しをできるだけ避けてください。

## Memo

## Protocol

GroE Mix は、PUREfrefx® (#PF001-0.25、#PF201-0.25) を用いたタンパク質合成反応で使用できます。例えば、PUREfrefx® を用いたタンパク質合成反応を20 µL で行う場合、以下のように添加して使用できます。

- Solution I を、室温~37℃ で1分間ほど温めて完全に融解し、氷上に置きます。
- Solution II、III 及び GroE Mix を氷上で融解します。
- 融解した Solution I、II、III、GroE Mix を軽くボルテックスした後、遠心して内容物をチューブ下部に集めます。
- 以下のように反応液を調整します。  
(DNA は1 kbp あたり 0.5-3 ng/µL になるように添加してください。)

	#PF001	#PF201
Water	8-X µL	7-X µL
Solution I	10 µL	10 µL
Solution II	1 µL	1 µL
Solution III	1 µL	2 µL
Template DNA	X µL	X µL
Total	19 µL	19 µL

## Protocol

- 37℃ で15分反応させます。\*3
- Dilution Buffer で2倍希釈した GroE Mix を、1 µL 加えます。\*4
- 37℃ で、さらに2~4時間反応させて、タンパク質を合成します。
- 合成されたタンパク質を、それぞれの目的に使用します。

\*3)

GroE Mix の添加により、転写が阻害されるタンパク質があります。標準プロトコルとしては、GroE Mix の添加前に37℃で15分のインキュベーションを推奨しています。

\*4)

GroE Mix の必要量は、合成するタンパク質によって異なる場合があります。希釈が必要な場合は、添付の Dilution Buffer で GroE Mix を希釈して使用してください。